

## 世と教界を見る目を養う(12)

### =バビロンからの解放=

#### 御言葉: マタイ13章; 使徒8-9章

(1) 天の御国と神の国: 天の御国は現在の教会時代のエクレシアの領域と次の千年期の王国であり、神の国の経綸の一部→主はマタイ13章で地上に現れたエクレシアについて言及

(2) 現経綸の特徴: 良いものと悪いものの同居; 教会の変質(=野菜から鳥が巣を作る大木へとcf.エレミヤ24章; ダニエル4章)→刈り取りの時まで放置

(3) 私たちの地位: この世では寄留者であり、仮住まいの者(ヘブル11:13; 1ペテロ2:11)→安定と固定化への誘惑(肉の欲、目の欲、持ち物の誇り)

(4) バベルの塔に対する神の取り扱い(創世記11:6-9)→現代はこの逆で、統一化・規格化を求める

(5) エルサレム教会の歩み: ペテロの説教による3,000人の収穫(使徒2章)→迫害(使徒8章)→信徒が散らされユディアとサマリヤにまで福音が伝わる=主の言葉の成就(使徒1:8); 苦難の必要性(ローマ8:17)とパン種の除去(1コリント5:6-8; ガラテヤ5:9)

(6) エルサレムの陥落: AD70年、タイタス(Titus)による→ユダヤ人はディアスポラにより全地に散らされる

#### (7) バビロンと御国

・バビロン: 高さを求め、固定化・安定化を求める

・御国: 横へ広がり、いのちは絶えず流れる→安定化・固定化とは真逆(黙示録22:1-3節)